

現状を打破する“コラボレーション”とは ～その先は連携から生まれる～

かつて城下町として栄え、今も「小江戸」の別名を持つ川越市は、歴史の風情が漂うまちである。その地で昭和55年に創業したイーグルバスは、観光バスや高速バスを主体に事業を展開してきたが、平成14年の改正道路運送法の施行により、乗り合いバスの規制が緩和されたのを機に、路線バス事業に参入。業績は順調に推移していた。転機が訪れたのは18年のこと。同市が隣接する日高市からの要請で、大手バス会社が撤退した路線を引き受けることになったのだ。

「見える化」で赤字路線改善へ

埼玉県西部地域を中心に総合バス事業を展開するイーグルバスは、平成12年から埼玉大学と連携し、路線バス事業の改善に取り組んでいる。バスに乗降センサーを設置して多角的にデータを収集。運行状況や顧客ニーズ、コストを「見える化」したことで、収益の改善に結びつけた。



社名 イーグルバス株式会社
住所 埼玉県川越市中原町2丁目8番地2
電話 049-226-0111
代表者 谷島賢 代表取締役
従業員 180人



▲路線バスの乗降口に設置された乗降センサー。カウントされた数値は車載CPUとWi-Fiアンテナによって、随時会社に転送される

▲川越の観光名所を結ぶ、同社の「小江戸巡回バス」。レトロなボンネットバスが人気だ



▲「大学の持つさまざまな研究結果を、実務の世界に応用して役立てたいというのが、連携を始めたきっかけです」と語る谷島賢社長

「まさに絵にかいたような赤字路線で、会社の存続にも関わると危機感を持ちました。これを立て直すには、まず問題を洗い出さなければなりません。ところが、バスはいったん車庫を出ると誰も運行状況を把握できません。すべて運転士の勘と経験に委ねられてきたわけです。これは真っ先に運行状況を『見える化』する必要があると思いましたが」と同社社長の谷島賢さんは説明する。

そのため、同社は埼玉大学に協力を求めた。もともと同大とは、12年から全国に先駆けてバスロケーションシステム（バス現在位置情報検索）の導入・実用化を共に取り組んできたという経緯があり、引き続き連携を図って路線バス事業の改善に乗り出したのだ。

大学と連携して路線バス事業の業績回復

イーグルバス
埼玉県川越市

「社だけでは解決できないことも、異業種や違った視点を持った協力者と力を合わせることで思わぬ解決の糸口が見つかることがある。今号では「連携」によって現状を打破した事例を紹介する。」

現状を打破する「コラボレーション」とは
その先は
連携から
生まれる